

令和6年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
(I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
事業内容報告書の概要

地方公共団体名【大山崎町】

令和6年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)

大山崎町教育支援委員会(在学部会)

・各校特別支援学級担任、管内支援学校総括主事、町教育委員会担当者

校長会議

・各校校長、町教育委員会担当者

学校体制

・特別支援学級に児童が在籍し、学級担任プラス特別支援員1名が付きつきりとなって指導。

2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1.4)・大山崎町教育支援委員会の在学部会を実施し、毎月定期的に行われる校長会議等でも情報共有。

(2)・主に国語と算数の授業は特別支援員が付きつきりで指導し、体育や生活、音楽等の授業では通常学級で他児童と交流しながら授業に参加。

(3)・国語の時間では教科書だけでなく、児童が理解しやすい本を図書室からチョイスし、読み聞かせ。

(3)・授業の取り組みの一環で、テーマに沿った日本語によるスピーチを実施。

(10)・特別支援員は通常学級との交流授業の際、対象児童のフォローに入り、クラスに馴染みやすいよう努めた。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(2.10)・日本語の上達が目に見えるようになり、日本語によるコミュニケーションがとれるようになった。

(3.10)・「話す」、「聞く」はできるようになったが、「書く」のレベルが低いため、「書く」の指導に力を入れていく。

(1.2)・日本語の情報が多くなり、心理的負荷が大きくなっているので、自・情面の支援を増やす。

(4)・新入学、転入の情報はないが、適切な対応ができるように進めている。

本事業で対応した幼児・児童生徒数	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	(人園)	(1人 1校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		(1人 1校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)	(人 校)

4. その他(今後の取組予定等)

・来年度も引き続き同様の取り組みを実施。

・日本語の情報が多くなり、心理的負荷が大きくなっているので、自・情面の支援を検討する。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになつても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。